



Vol.20

ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

ウポポ(座り歌)



♪ウタラ ホブンパレワ リムセラ
ヤン ハーハイヨト

「みんな立ち上って踊ろうよ!」と歌うウポポ。儀式など、たくさんの方が集まったときの踊りのきっかけとなる歌なので、私は勝手に踊りの前歌と呼んでいるウポポ。色々な地域で歌われるウポポだけど、私が大好きなのは阿寒の日川キヨフチ(フチリばあちゃん)の歌ったウポポ。高い声と独特の節回しがカッコ良くて、喉使いがとにかく難しいんだよ。私の住む白老では、座ってシントコ(行器)と呼ばれる漆器の蓋を囲み、叩きながら拍子をとって歌うものをウポポと呼んでいるんだけど、地域によっては座り歌や立って歌う踊り歌、踊りも含めウポポと呼ぶところも多

いんだとか。

ウポポの特徴は何といってもウコウク。ウコウクは「互いに取り合う」という意味なので、歌を取りあうということかな? 数人または幾つかのグループに分かれて同じ歌を少しづつ間隔をあげて歌っていくんだよ。例えば
♪カニボンクト シントコ イタソーカタ:
このウポポを三人でウコウクすると、「カニボン、カニボン、カニボン」と、一拍ずつずれて順々に歌っていくことで歌が重なっていくの。

ウポポは短い歌が多いので四、五回も聞くと何となく歌えるようになるから初めての歌でも大丈夫。優子さん、ウコウクして歌うのって楽しいよね。好きなウポポ教えて?



一番好きなのは「チユブカワ カムイラン」で始まるきれいなメロディーのウポポ。二風谷に移り住んだ私が一番初めに覚えたウポポだから、なおさらなのかもしれないよね。おおよその意味は、

「東の空から神様が降りて、アオダモの木の枝に止まった。その声の長い響きを私たちは聴いた」。ここでいうカムイは、コタンコロカ

ウポポ(座り唄)



ムイ(村を司る神)、つまりシマフクロウのことだと言われているの。シマフクロウを位の高い神として尊ぶ、アイヌの人びとの世界観がよく顕れている気がします。

このウポポもきれいなウコウクが特徴。ウコウクって輪唱みたいな感じだけど、かつての日本に輪唱という歌唱法は無かったって知ってる? 周辺諸民族にもみられない、アイヌ独特の歌い方なんだって。

その他、最近いつの間にか口ずさんでいるのが「ウサ エーレイエレ、ウサ エーレイエレ、ウサ アッオイ、ウサ アッオイ」というシンプルな歌詞のウポポ。「ウエカフ(挨拶)」といい、旭川地方に伝わっています。

実はこのウポポは、8月から始まった「イランカラブテ・キャンペーン」のテーマソング。キャンペーンのねらいは、「イランカラブテ(こんちはは)」を北海道のおもてなしの言葉にすることで、アイヌ文化への国民理解も深めようというものなの。高橋はるみ北海道知事や北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督のウポポ: イチオシです! 我が札幌大学ウレシバクラブのメンバーも、とびっきりの笑顔で歌っています。キャンペンHPをどうぞ!

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。